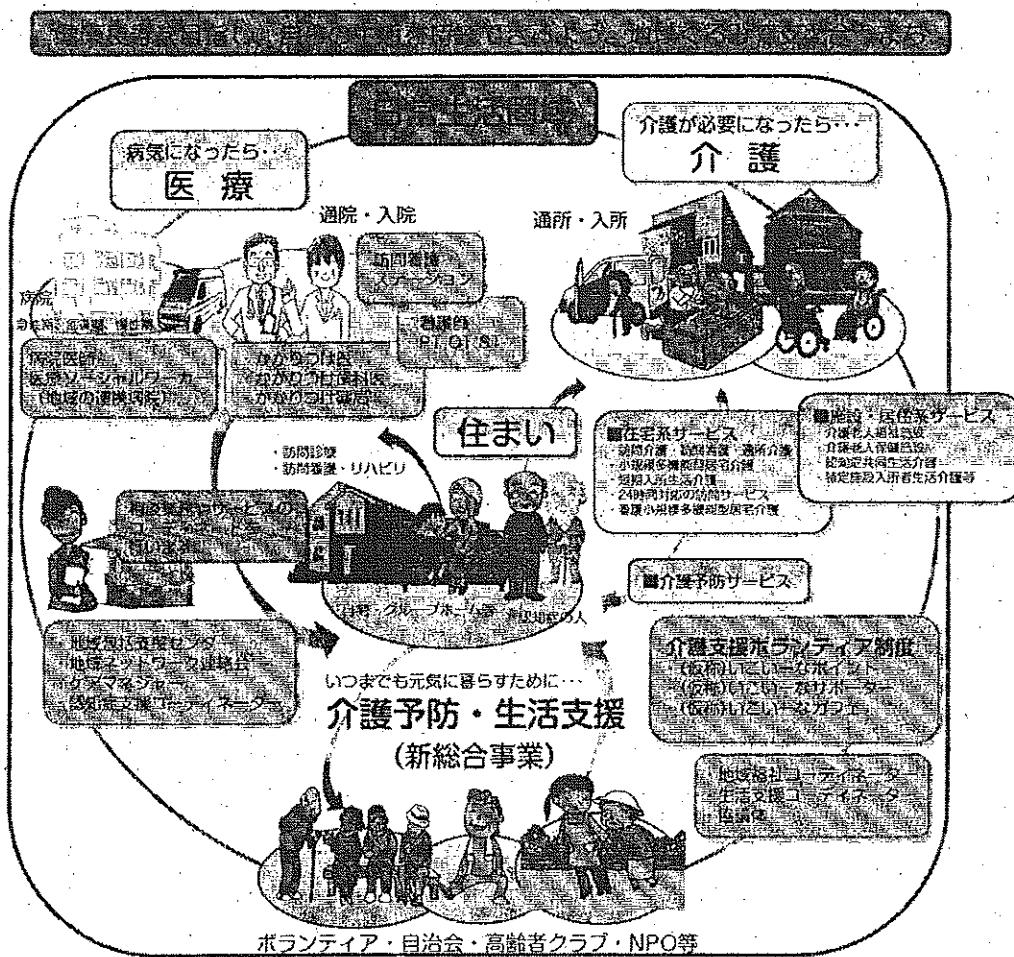


地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025年)を目途に、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- 地域包括ケアシステムは、市が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。
- 平成27年度から「介護予防の推進」「地域の力を活かした支え合いの取組」「認知症の人とその家族への支援」「在宅療養の推進」の重点化

西東京市の地域包括ケアシステムのイメージ



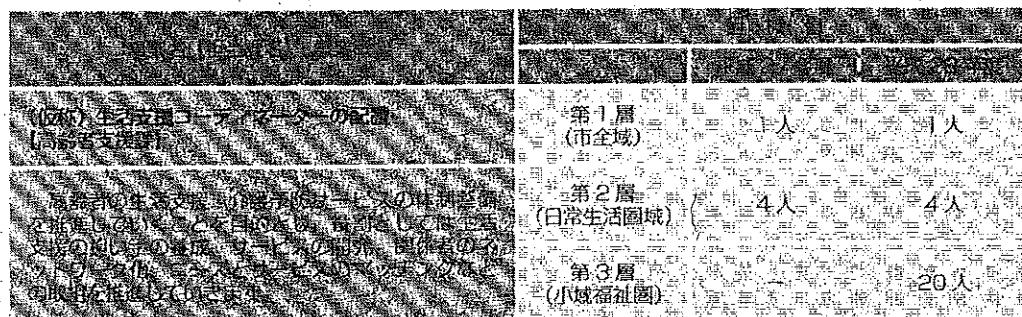
4 重点施策

団塊の世代が後期高齢者に移行する平成37年(2025年)の高齢社会の姿を念頭に置きつつ、第5期計画からの継続性を見据え、今後3年間で特に重点的に取り組む施策として、次の3点を掲げます。

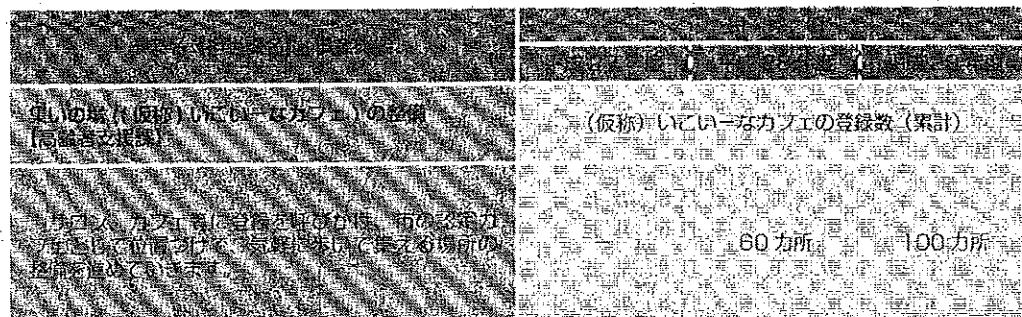
(1) 介護予防の推進

高齢者が安心して住み慣れた地域で健康に暮らし続けることができるよう、自分にあった健康づくりや介護予防に、高齢者自身が積極的に取り組むことができる施策を重点的に展開します。

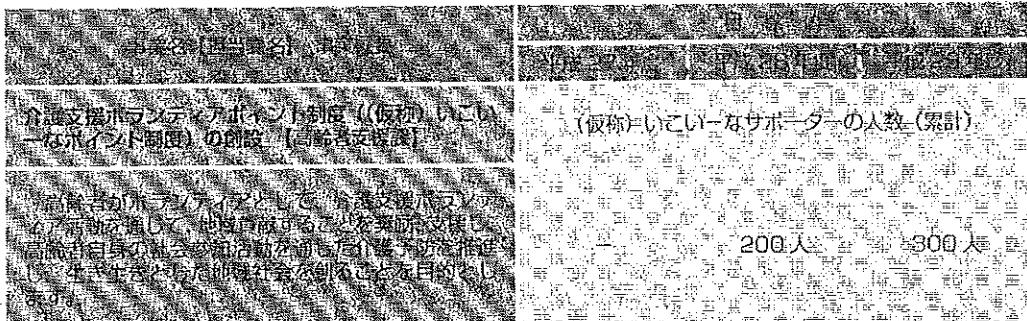
▽介護予防・日常生活支援総合事業の実施



▽地域資源を活用した多様な通いの場の整備



▽社会参加を通じた介護予防の推進



(2) 地域の力を活かした支え合いの取組

(認知症の人とその家族への支援を含む)

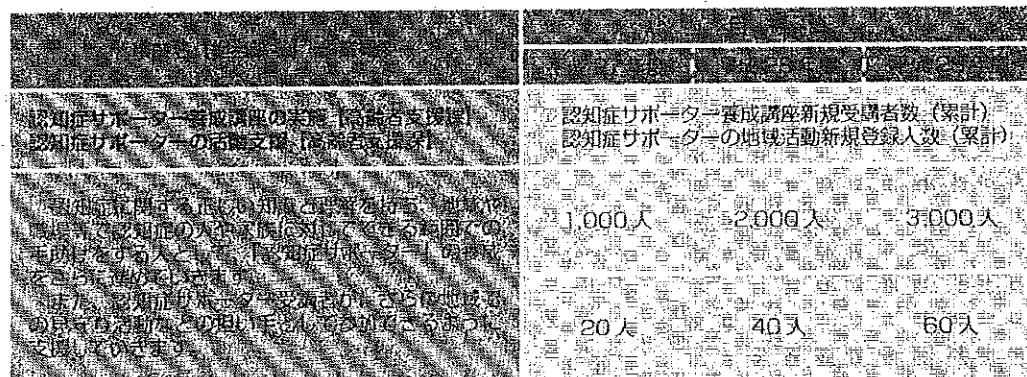
高齢者はこれまで人生で培ってきた、さまざまな知識・技術・経験などを持っています。それらを高齢者自らが積極的に活かし、生きがいを持って、さまざまな地域活動に参加することによって、支え合う地域の実現を進めることができます。

西東京市でも今後、高齢化が一層進展し、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、認知症高齢者等も増加することが見込まれます。高齢者や認知症高齢者、その家族の孤立を防ぎ、住み慣れた地域で安心して暮らしつづけることができるよう、地域が一体となって多世代による支え合いのしくみづくりを重点的に展開します。

▽地域での支え合い活動の推進

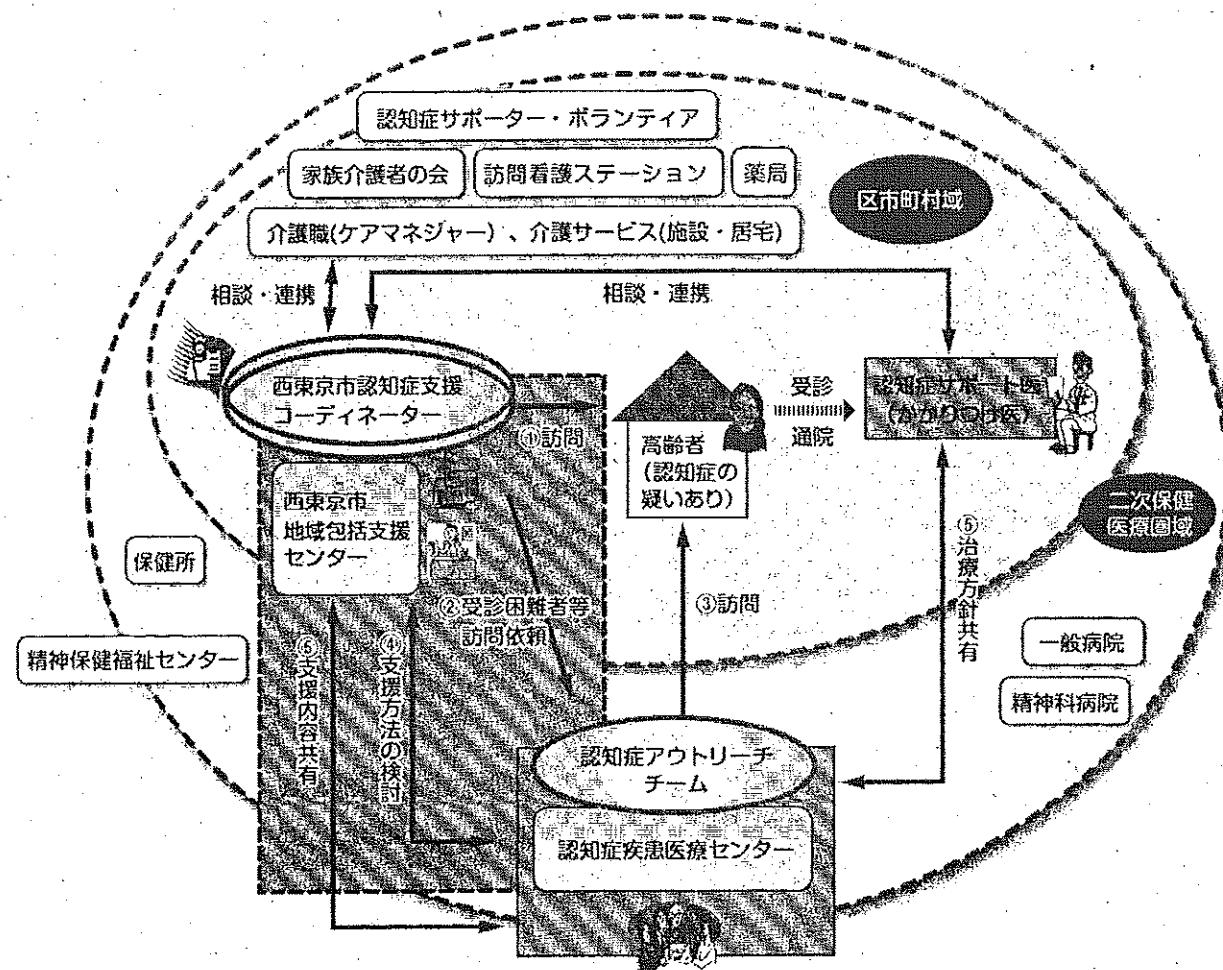
▽地域活動への参加を促進する情報提供の推進

▽認知症サポーターの充実と活動支援



- ▽認知症予防とケアのあり方の普及啓発や早期発見・早期対応
- ▽認知症高齢者の家族に対する情報提供と支援

認知症早期発見・早期診断推進事業のイメージ



(3) 在宅療養の推進

医療制度改革による在院日数の短縮化や高齢者人口の増加などにより、今後在家で療養する高齢者は増加すると予測されています。医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療サービスと介護サービスを一体的に提供できるしくみづくりを重点的に展開します。

- ▽在宅療養の担い手の増加
- ▽多職種連携の推進
- ▽在宅療養に係る理解の促進と相談・支援

在宅療養の推進体制のイメージ

